

令和元年度 地域リーダー育成プロジェクト事業

地域リーダー育成プロジェクトとは

高校生を対象に、郷土愛を育み、早期から将来を真剣に考える機会創出を支援し、地域に誇りを持つ・将来地域を担う・地域の課題解決に貢献する人材の育成を目指しています。人づくりの根幹である「教育」、特にキャリア教育を行政、高校、地域、企業が一体となり、産・官・学連携のもと、地域リーダー育成プロジェクト事業を実施します。

令和元年度の流れ

今年度は、これまでとやり方を変えて実施しました。今までは、1年間を通して1つのテーマについて対話をしていく形でした。しかし、学校行事や部活のある生徒にとっては継続して参加することは難しいため、多くの人が気軽に参加できるように1回で完結する単発のプログラム形式にしました。

6月から7月に、「スキルアップ研修Ⅰ」で3回の研修を行いました。その後、様々なテーマの19のプログラムを実施しました。19のプログラムの中には、ファシリテーションの手法やファシリテーターとしてのスキル向上を目指し、手法習得に特化した4つのプログラムや、市内の事業所等にご協力していただき実施した15のプログラムがあります。

6月～7月

①スキルアップ研修Ⅰ

- ・ファシリテーション
- ・講演会
- ・グラフィック

7月～R2年1月

②スキルアップ研修Ⅱ

ファシリテーションの手法やファシリテーターとしてのスキル向上を目指し、手法習得に特化した4つのプログラムを実施

③協力事業所等によるプログラム(対話のプログラム)

様々なテーマの15のプログラムを実施

第1回 スキルアップ研修Ⅰ 「ファシリテーターってなんだろう？」

日 時:令和元年6月26日(水)17:00~18:30

講 師:市民ファシリテーターCLIP

参 加 者:榛原高校(42名)/相良高校(32名) 合計74名

— 内 容 —

①「地域リーダー育成プロジェクト事業」説明

目的・内容などを説明

②アイスブレイク

③グループ対話「価値観が違う人と協働するためにどんな話し合いが良いのか？」

多様化・複雑化している時代の話合いに必要なことを考える

④「ファシリテーション」について説明

議長とファシリテーターの違い・ファシリテーターの特徴

⑤グループ対話「よいファシリテーターになるために心がけること」

⑥まとめ

講師がファシリテーターとして気を付けていること

— 今回のポイント —

ファシリテーターとは何か、ファシリテーターとして心がけることなど、ファシリテーターをするうえでの心構え等を習得するために実施しました。

この研修は、今年度初めて榛原高校と相良高校の生徒が一堂に会する場となりましたが、和やかな雰囲気で行いました。参加した高校生からは、「自分のスキルをどのように活かすか、実践的に学べた。将来必須となるスキルなので大事にしたい。」という感想がありました。



考えをフセンに書き出しグループで共有しました



市民ファシリテーターCLIPによるグラフィック

第2回 スキルアップ研修Ⅰ 「山ノ内さんの話を聞いてみよう！」

日 時:令和元年7月12日(金)16:00~18:30

会 場:さざんか1階 ふれあいホール

講 師:合同会社 Active Learners 共同代表 山ノ内 凜太郎氏

参 加 者:榛原高校(40名)/相良高校(36名) 合計76名

— 内 容 —

①開会

②講 演

講師 合同会社 Active Learners

共同代表 山ノ内 凜太郎 氏

- ・自己紹介/アイスブレイク/目的説明/今日の流れ
- ・個人ワーク「人生において大切にしたいことを考える」
- ・ペアワーク「お互いの考えを共有しよう」
- ・情報提供「山ノ内凜太郎が大切にしていること」
- ・グループワーク「お互いの考えを共有しよう」・「コンセンサスゲーム」
- ・まとめ・ふりかえり

— 今回のポイント —

第2回は、山ノ内凜太郎さんを講師に招き、対話で他者の考えに触れ、自分の考えが変化することを体験することで、これからの対話の学びに対する興味を持ってもらうことを目的に実施しました。

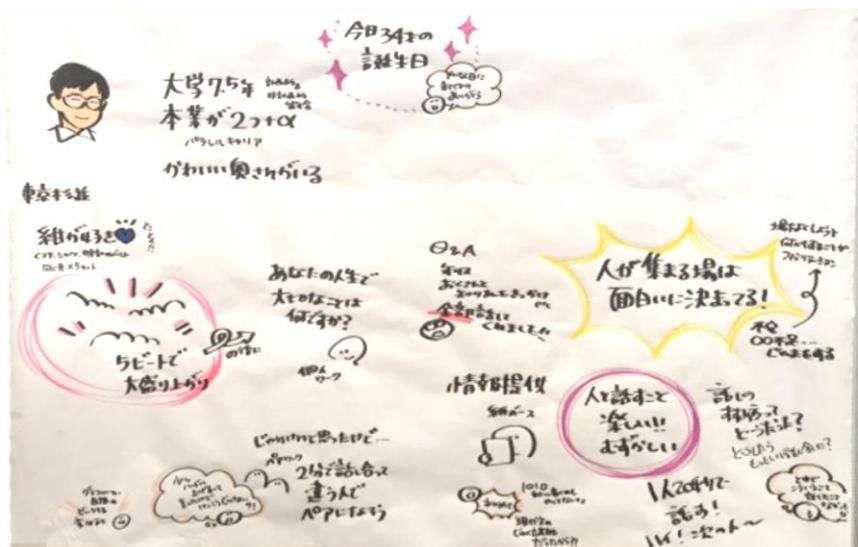
参加者から、「人の意見を聞いて、自分の意見の変化をまとめることができた。」、「司会が上手いと面白く(楽しく)なるとわかった。」などの感想があり、考えの変化を体感し、対話の学びに対しての興味が生まれたことがわかります。



グループで各自の考えを共有します



講師の話を真剣に聞いています



市民ファシリテーターCLIPによるグラフィック

第3回 スキルアップ研修Ⅰ 「グラフィックをやってみよう！」

日 時:令和元年7月17日(水)16:30~18:30

会 場:さざんか1階 ふれあいホール

目 的:グラフィックのポイントを学び、実際に話している人の内容をグラフィックする

講 師:市民ファシリテーターCLIP

参 加 者:榛原高校(42名)/相良高校(27名) 合計 69名

— 内 容 —

- ①自己紹介・趣旨説明
- ②グラフィックハーベストとは？
- ③実践
 - ・パンケーキレコーディング
 - ・「このチームで今までにない新しい仕事をつくろう」
- ④まとめ

— 今回のポイント —

グループに分かれ、話している人の内容を実際に書く、という実践的な研修を行いました。聞きながら書き残すということに苦戦する生徒が多いましたが、みんな楽しくグラフィックを行う事ができました。

「絵で伝えることで分かりやすくなることを再確認できた。」、「絵にかたよりすぎず、字と組み合わせて“伝わる絵”を書くことが大切。」という感想がありました。



グループみんなでグラフィックを作成しました



パンケーキレコーディングに挑戦

スキルアップ研修Ⅱ 対話の手法を知ろう①～「KJ法」を学ぼう～

日 時:令和元年7月 24 日(水)14:00～16:00

会 場:榛原文化センター3階 大会議室

講 師:市民ファシリテーターCLIP

参 加 者:榛原高校(29 名)/相良高校(4名) 合計 33 名

— 内 容 —

①アイスブレイク/自己紹介

②KJ法について説明

・文化人類学者の川喜田二郎が考案。「発想法」(1967 年)

③グループワーク

・「高校生活を楽しくするアイデア」

・KJ法をやってみての気づき/今までの話合いと比べる/どんな場面・問いでKJ法使うことができるか

④まとめ

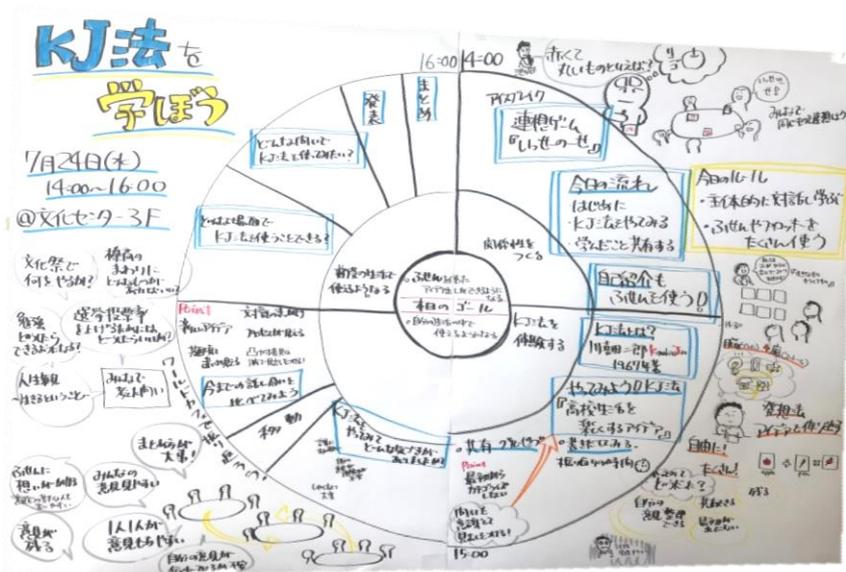
— 今回のポイント —

色々な考えをまとめ、収束させるために用いられる『KJ法』を学び、実践の場で活用できるようにすることを目的に実施しました。

「KJ法を使うととても意見がまとめやすいと感じた。」、「対話で使える新しい技法を学んだことで対話のスキルがよが上がった。」という感想がありました。『KJ法』の活用方法を体感し、参加者の理解が深まったことがわかりました。



フセンに意見をたくさん書きました



市民ファシリテーターCLIPによるグラフィック



出されたアイデアをグループごとにまとめました

スキルアップ研修Ⅱ 対話の手法を知ろう②～対話って何？～

日時:令和元年8月28日(水)15:30～17:30

会場:榛原庁舎4階 会議室

講師:青森中央学院大学准教授 佐藤淳先生

参加者:榛原高校(32名)/相良高校(5名) 合計37名

— 内 容 —

①アイスブレイク

②講 演

講師 青森中央学院大学准教授 佐藤 淳先生

佐藤先生の経歴・牧之原市との関わり/対話の重要性

③ワールドカフェ

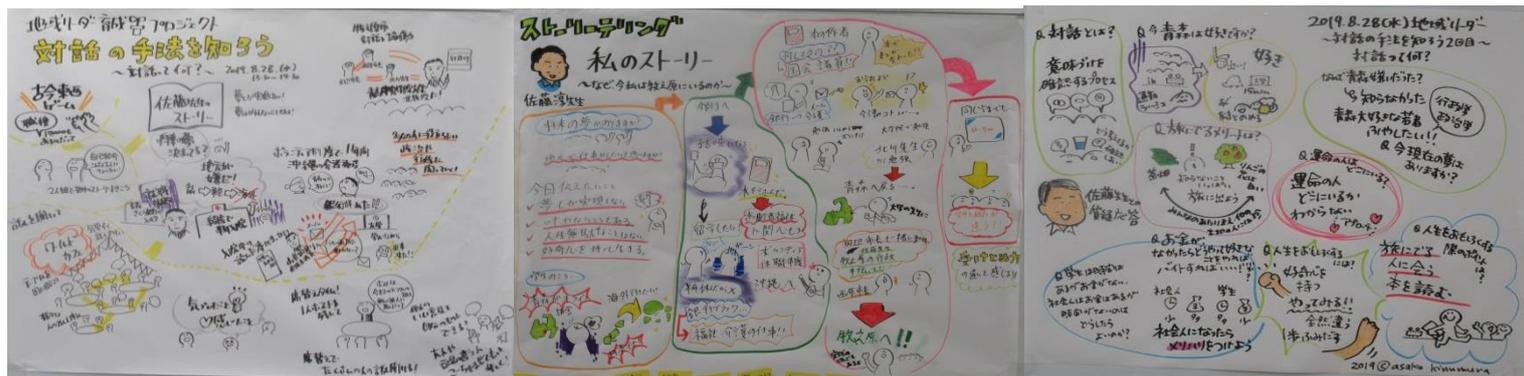
④質疑応答

— 今回のポイント —

佐藤先生の経験から「対話」の重要性を学び、今後の対話の学びへの意欲を高め、さらに研修の中で実施する「ワールドカフェ」の手法を体験し、学ぶことを目的に実施しました。

ワールドカフェでは、佐藤先生の話のなかで印象に残った・質問したいことをグループで話し合いました。質疑応答の場では、佐藤先生が出された質問に答えていきました。

「佐藤さんのストーリーで、人生何が起るかわからないことを知ったこと」、「ワールドカフェという話し合いが楽しかった。」という感想が参加者からありました。



市民ファシリテーターCLIP・高校生によるグラフィック



ワールドカフェを実践しました



ワールドカフェ実践前に講師よりやり方や効果を説明

スキルアップ研修Ⅱ 対話の手法を知ろう③～「問いづくり」～

日 時:令和元年9月9日(月)17:00～18:30

会 場:榛原庁舎4階 会議室

講 師:市民ファシリテーター CLIP

参 加 者:榛原高校(20名)/相良高校(14名)合計34名

— 内 容 —

①アイスブレイク/自己紹介

③「対話の手法を知ろう①」「対話の手法を知ろう③」の振り返り

④グループワーク① 「問いの展開」

- ・「open question」、「close question」の説明
- ・「open question」を意識して、「対話について気になること」というテーマで問いを展開させていく

⑤グループワーク②

- ・グループで問いを作成し、その問いでグループワーク

⑥振り返り/まとめ

— 今回のポイント —

対話の中で重要になる「問い」の作り方を学び、作った『問い』でワークショップを行う事で、問いづくりの際の注意点やポイントを学ぶことを目的に実施しました。

「対話のコツを学べた気がした。」、「質の良い問いについて考えることができるようになった。」など、対話の本質である『問い』について学び・考える貴重な機会となりました。



グラフィックで1・2回目を振り返りました



みんなで考えて『問い』をつくりました



高校生によるグラフィック、今回初めてグラフィックを行った生徒もいました

スキルアップ研修Ⅱ 「幸せ指標で牧之原を考えよう」

日 時:①令和元年 10 月 18 日(金)17:00~18:30
②令和元年 10 月 19 日(土) 9:00~12:00
③令和元年 11 月 30 日(土) 9:00~12:00

会 場:①さざんか2階会議室
②榛原庁舎4階 会議室
③榛原庁舎4階 会議室

講 師:宮崎産業経営大学 出山実先生

参 加 者:榛原高校(49 名)/その他(31 名)/ 合計 80 名

— 内 容 —

① 令和元年 10 月 18 日(金)

- ・自己紹介
- ・情報提供「GNH(幸せ指標)について」
- ・GNHをカードゲームで考えてみよう

②令和元年 10 月 19 日(土)

- ・アイスブレイク
- ・情報提供「持続可能な社会とは」
- ・牧之原版 GNH指標づくり⇒アンケートを作成し、榛原高校・相良高校の生徒などに回答してもらう

③令和元年 11 月 30 日(土)

- ・1・2回目の振り返り
- ・情報提供「GNH幸せ指標について～実際の取組事例の紹介～」
- ・アンケート結果の説明
- ・グループトーク
アンケート結果「どちらでもない」が多い理由／「どちらともいえない」を超えていくにはどうしたらいいか／幸せを掴むためにできること

— 今回のポイント —

宮崎産業経営大学の出山実先生を講師にお招きし、ブータンで掲げられている幸せ指標(GNH)の牧之原版を考え、アンケートを実施し、その結果を分析しました。

「自分のまちを住みやすいまちにしたいと改めて思った。」という意見があり、牧之原版の幸せ指標を考えることで、自分の住んでいる地域について改めて考える機会になりました。



GNH(幸せ指標)について説明



地域の方も一緒に考えました



アンケートの項目を選定

対話のプログラム 「セラピストになるために」

日 時:①令和元年8月1日(木)13:00~16:30

②令和元年8月8日(木)13:00~16:30

会 場:榛原総合病院

講 師:榛原総合病院

参 加 者:榛原高校(9名)/相良高校(17名)合計 26名

— 内 容 —

① 自己紹介

②情報提供「リハビリテーションについて」

理学療法士の方から、リハビリテーションやリハビリテーションに関する職業について説明

③病院内の見学・体験

④グループワーク

講義・病院見学の質問／進路や職業についての質問

⑤まとめ

— 今回のポイント —

病院の業務のなかで、なかなか知る機会のない作業療法士や理学療法士、言語聴覚士について、実際に仕事をされている方に話を聞き、医療の現状を知るとともに将来の職業意識を高めることを目的に実施しました。

「医療に対しての見方が変わった。」、「医療の仕事に就きたいという気持ちが強くなった。」という感想があり、実際に職員の方と対話をしたことが、参加者の将来の職業選択等に大きな影響を与えました。



療法士の方に病院のこと職業の事など色々質問しました



病院内を見学

対話のプログラム「地域生活とお金について」

日 時:令和元年8月6日(火)13:30~16:00

会 場:島田掛川信用金庫 榛原支店

講 師:島田掛川信用金庫

参 加 者:榛原高校(4名)/相良高校(12名) 合計16名

— 内 容 —

① 開会

② 情報提供

- ・島田掛川信用金庫の概要
- ・島田掛川信用金庫が関わっている高校生の取組
高校生による地方創生研究発表会／川根高校生による川根本町ガイドツアー
- ・お金の基本的な仕組み

③ 札勘体験

模擬の札束で札勘定を体験

④情報提供

平成30年度入庫の相良高校卒業生より入庫から現在まで

⑤グループワーク

- ・卒業生の話を聞いた感想
- ・「もし自分がクラウドファンディングをすることになったら何をしたいか？」

— 今回のポイント —

地域の金融に精通している信用金庫の職員の方から、「お金」の仕組みについて学び、信用金庫の地域に関する取組を聞くことで地域理解を深めることを目的に実施しました。

「地域に金融機関があることの大切さがよりわかった。」「地域についてもっと学ばなければならないと思った。」などの感想があり、地域と金融についての関心の高まりがみられました。



グループでテーマについて考えました



札勘を実際に体験。楽しく体験しました

対話のプログラム「地域医療の向上を目指して」

日 時:令和元年8月7日(水)13:30~17:00

会 場:牧之原消防署2階 会議室

講 師:静岡市消防局牧之原消防署

参 加 者:相良高校(13名)/OB(1名) 合計14名

— 内 容 —

① 普通救命 I の講義

・DVD鑑賞

心肺蘇生の重要性／心肺蘇生のやり方について

・心肺蘇生の実技講習

②グループワーク

・「どのようにすれば牧之原市がよりよい医療体制に整うか」

・「バイスタンダー CPR を向上させるためには」

③まとめ

・認定証交付

普通救命 I の修了証を牧之原消防署長より交付

— 今回のポイント —

普通救命講習 I の講義を受講し、救急の場に居合わせた人(バイスタンダー)となった際に対応できる人となれるようにし、消防署の職員の方と対話をする事で、地域医療の現状を理解することを目的に実施しました。

参加した高校生からは、「人が倒れていたりしたら、自分から助けに行き学んだことを活かせるといいです。」「救急医療を目指す者として、他の者を先導できるくらいの知識を習得していこうと思った。」などの感想がありました。心肺蘇生の実技を学び、グループワークで牧之原市がよりよい医療体制について対話することで、救急の現場でバイスタンダー(救急の場に居合わせた人)として命を救う一役を担うことができることを学びました。



2つのグループに分かれ、心肺蘇生を学びました



消防士の方とグループごとテーマについて考えました

対話のプログラム 語 ring(カタリング)

日 時:①令和元年8月11日(日)9:30~11:30

会 場:①牧之原市役所榛原庁舎4階 会議室

講 師:地域リーダー育成プロジェクトOB・OG

参 加 者:榛原高校(7名) 合計7名

— 内 容 —

① アイスブレイク

② ストーリーテリング

OB・OGが一人ずつ発表(今やっていること、苦労していることなど)

ワールドカフェ形式で実施

④ まとめ

感じたこと・頑張ろうと思ったことなどを発表

— 今回のポイント —

今まさに進路選択で悩んでいる高校生が地域リーダー育成プロジェクトを卒業したOB・OGの先輩方の話を聞くことで、進路選択や今すぐにもやっておいたほうが良いことなどを再確認しました。

「大学生活を、とても気楽に聞けた。自分の進路を決めるいいきっかけになった。」「自分の話をすることで自分の将来を考えなおすことができた。」などの感想がありました。

参加したOB・OGも自分の話を聞いてもらうことで改めて自分の目標等を自覚し更なる成長へ拍車をかけました。



OB・OGが企画、運営をしてくれました



ワールドカフェ形式で実施し、色々な人と対話しました



OB・OGのおかげで和やかな雰囲気でした

対話のプログラム「地方創生について語ろう」

日 時:令和元年8月 20 日(火)14:00~17:00

会 場:静岡銀行 榛原支店

講 師:株式会社静岡銀行

参 加 者:榛原高校(5名)/相良高校(12名)合計 17名

— 内 容 —

① アイスブレイク

② 情報提供

・静岡銀行の行員の方の話し

キャリアについて/なぜ今、地方創生なのか/静岡銀行の取組/牧之原市の現状

・牧之原市地域おこし協力隊の方の話し

プロフィール/前職について/牧之原市の魅力/移住した理由

③ グループワーク

・「地元の魅力を発信するには？」

ターゲットを考え、「牧之原市の特産品・資源」×「なにか」を考える

④ まとめ

A4用紙に個人の考え・思いを記入し、3つのグループに分かれ円形で全員が発表

— 今回のポイント —

静岡銀行の地方創生部より、静岡銀行の地方創生の取組や、県・牧之原市の現状を踏まえ、なぜ地方創生が必要とされているかの説明がありました。また、グループワークでは「地元の魅力を発信するには？」というテーマで発信方法を具体的に考えることができました。

「どうしたらもっと地域の魅力を知ってもらえるか(発信方法)、そういう視点を持ちたい。」「今ある魅力をどう活かすかばかり考えていた時に、新しい魅力を作ってしまうという意見を聞いたことが印象に残った。」といった感想があり、参加者の地域の魅力を発信していこうという意気込みを感じました。



地元の魅力発信の方法をグループで考えました



市民ファシリテーターCLIPによるグラフィック

対話のプログラム「牧之原に来る大学生と話そう！」

日 時:①令和元年8月 20 日(火)14:00～17:00

②令和元年9月 7 日(土)14:00～17:00

会 場:カタショーワンラボ(旧片浜小学校)

講 師:コトハジ株式会社

参 加 者:榛原高校(10 名)/相良高校(8名) 合計 18 名

— 内 容 —

① アイスブレイク

②プログラムの目的や目標の説明

③グループワーク

・将来のヒントを見つける

「大学・サポート・仕事・プロジェクト・日本」と自分の好きなことを掛け合わせ検索し、検索結果をグループ内で共有

・自分の将来について考える

検索結果と『大学でできること 100 個リスト』を参考に、グループ内で共有する

④まとめ

— 今回のポイント —

(株)コトハジが実施している教員志望の大学生向けの TEA CHER プログラムの一コマに対話のプログラムを組み込み実施しました。プログラムの組み立ては参加した大学生が行い、大学生と高校生でプログラムを運営しました。

大学のない牧之原市では、大学生との交流は貴重です。大学生から進学や大学生活について話を聞き、進路選択や大学生活について話を聞きました。参加者からは、「将来について、少しくリアになった。」、「今よりじっくり自分の未来を考えようと思った。」などの感想がありました。



ワールドカフェ形式で対話をしました



地域の方も参加してくれました

対話のプログラム 「面白いもの発見コンテスト in 答志島」

日 時:令和元年 8 月 26 日(月)～8 月 27 日(火)一泊二日

研 修 先:三重県答志島

参 加 者:榛原高校(22 名) 合計 22 名

— 内 容 —

8 月 26 日

①入村式

②フィールドワーク

答志島PR動画作成のための素材探し

③ワークショップ

答志島のことについて地元の人から聞き取り

8 月 27 日

①ワークショップ

PR動画の作成・編集

②発表

③講評

④退村式

— 今回のポイント —

豊かな自然や文化、人情に恵まれる一方、若者の島離れ、漁業や観光の衰退などの課題に直面している三重県答志島で、答志島の島民の方や三重県の高中生・大学生と一緒に考え、対話をし、行動することを目的に実施されています。

今回のテーマは、「答志島の魅力を見つけPR動画を作成する」というものでした。学校関係なくチームを組み、チームごとに島を巡り島の魅力を見つけ、動画を作成しました。

今回の研修は、参加した高校生が異なる地域について考えることが、自分の住んでいる地域について考えるきっかけとなりました。



島の漁師の方から答志島の事を教えてもらいました



スマートフォンを使いPR動画を作成しました

対話のプログラム 「シネマ de ダイアログ」

日 時:令和元年 10 月5日(土)13:00~17:00

会 場:カタショーワンラボ(旧片浜小学校)

講 師:市民ファシリテーターCLIP

参 加 者:榛原高校(4 名) 合計 4 名

— 内 容 —

①プログラムの趣旨説明

②自己紹介

③映画鑑賞

『幸せの経済学』

④個人ワーク

幸せを感じる時について、なぜそれを幸せに感じるか考える

⑤グループワーク

- ・映画の感想を共有
- ・グループで対話したいテーマを考える
- ・「グローバリゼーションは本当に悪なのか」・「グローバリゼーションは何で心に余裕がなくなるのか」について考える

⑥個人ワーク

「新たな幸福の視点は？」

⑦まとめ

— 今回のポイント —

持続可能な社会がテーマの『幸せの経済学』を鑑賞し、グローバリゼーション・ローカリゼーションについて考えました。映画はローカリゼーションに重きをおいた内容でしたが、「色々なことに一長一短があり自分の判断基準をもつことが大切だなと思いました。」といった意見や、「グローバルとローカルの違いを知れたので自分の地域についても興味が湧いてきました。」という感想がありました。



講師より今日の目的などの説明がありました



グループ内でまとめた意見を全員で共有します

対話のプログラム 『やりたい！』って本当にやれるの？

日 時:令和元年 10 月 25 日(金)17:00~18:30

会 場:就業改善センター3階 研修室

講 師:一般財団法人サステナビリティ・ダイアログ 代表 牧原ゆりえ

参 加 者:榛原高校(12 名) 合計 12 名

— 内 容 —

① アイスブレイク

② 講話

一般財団法人サステナビリティ・ダイアログ 代表 牧原ゆりえ 氏

経歴／対話(ダイアログ)とは

③ 対話の練習

- ・話しは相手に伝わりにくい、伝えることは相手に一方的にキャッチさせることではない
- ・ストーリートリオハーベスティング

④まとめ

— 今回のポイント —

一般財団法人サステナビリティ・ダイアログの代表である牧原ゆりえさんより、牧原さんの経歴や対話(ダイアログ)について講話をして頂きました。講話の後は、実際に「対話の練習」を行いました。「対話の練習」により、話は相手に伝わりにくく、伝えることは相手に一方的にキャッチさせることではないということを体感しました。そこでグラフィックや表情などが伝えるための補助となることを学びました。



講師の話を輪になって聞きました



高校生がグラフィックしました



ダイアログの原理について説明がありました

対話のプログラム「異国の文化に触れよう」

日 時:令和元年 11 月4日(月・祝)13:30~16:00

会 場:矢崎総業株式会社 ものづくりセンター

講 師:矢崎総業株式会社

参 加 者:榛原高校(10 名)/相良高校(10 名)/OG(1 名)/ 合計 21 名

— 内 容 —

① 矢崎総業の方からの話し

- ・趣旨・目的等の説明
- ・外国の方の自己紹介(タイ・ベトナム・チュニジア・モロッコ・中国・フィリピン・サモア、モザンビーク・オーストラリア等での居住経験者)
- ・日本の常識と比較し世界の状況を説明

②グループディスカッション

- ・ワールドカフェ形式で実施。グループには高校生と外国人が混在
- ・外国人の方が作成した国の説明資料をもとに対話

③発表

④まとめ

— 今回のポイント —

異文化交流を通じ、価値観の違いを理解し、外国人に限らず、これから地域社会で生活していくことや対話の中で重要になる、「自分の意見を押し付けず、共感をしてもらってうなずきを得ること」の重要性を感じることを目的に実施しました。

「異国の文化を、対話を通して知ることができてとても楽しかった。」「日本人の労働者、そして外国人労働者が外国語をしっかりと勉強することでコミュニケーションが取れるようにすることに加えて、文化の違いを同時に知り、仕事上での考え方の違いをお互い理解し合うことにつながるということが印象に残った。」という感想がありました。



対話のなかで、様々な驚き・気づきがありました



高校生がグラフィックしました

対話のプログラム 「わくわくワーク」

日 時:令和元年 11 月 17 日(日)10:00~15:00

会 場:相良小学校グラウンド

講 師:牧之原市商工会青年部

参 加 者:榛原高校(3 名)/相良高校(6 名) 合計 9 名

— 内 容 —

① 事前打合せ

・グループワーク

ブースごとに、ブース担当の商工会青年部の方と高校生が集客方法やPR方法について検討
看板の作成

② わくわくワーク当日

担当のブースに分かれ、訪れた子どもに説明や体験補助

— 今回のポイント —

田沼意次生誕 300 年祭のなかで、商工会青年部として「わくわくワーク」というブースを出展しました。「わくわくワーク」は、商工会青年部の部員が経営している事業に関連したものを小学生くらいまでの子どもが職業体験として参加するものです。

参加した高校生は事前の打合せから参加し、担当のブースのPR方法などを商工会青年部の方と一緒に考えました。

参加した高校生は、企画の段階から参加し、看板作りなどを体験できたことや普段関わることのない商工会青年部の方々と交流できたことについて充実した時間を過ごせました。



事前の打合せの風景



ブースのひとつ「いちごスムージー作り体験」



ブースのひとつ「職人体験 アンティーク雑貨」

対話のプログラム 「さいたま市ファシリテーション講座」

日 時:令和元年 11 月 23 日(土)～11 月 24 日(日)一泊二日

研 修 先:埼玉県さいたま市 浦和コミュニティーセンター

参 加 者:榛原高校(19 名) 合計 19 名

— 内 容 —

11 月 23 日

① 大宮盆栽美術館見学

・盆栽によりまちづくりをしている大宮の取組を学ぶ

② ワークショップ

・「私が感じた盆栽の魅力」

・紅葉のカード作り

11 月 24 日

① ワークショップ

・アイスブレイク 牧之原市とさいたま市の高校生が事前に準備していたものを披露

・ワークショップ

「自分達のまちをもっとよいまちにするために、私たちができること」

「地域・世代・立場の違いを超えて、見えてきたこと大事にしたいこと」

「私がやってみたいこと」

・まとめ

— 今回のポイント —

彩魂～埼玉×NPO×若手ネットワークとさいたま市が実施している「さいたま市ファシリテーション講座～コミュニティをアップデート」に牧之原市の高校生が参加しました。

1日目は、さいたま市の盆栽文化に触れました。2日目は、ワークショップを行いました。ワークショップでは、「自分達のまち」について考えていきました。対話をしていく中で、高校生と大人、さいたま市民と牧之原市民などそれぞれの立場・視点で考えたことの違いや共通点を認識し、最後に「私がやってみたいこと」をそれぞれ考えました。

参加者からは、「離れた場所に住んでいても一緒に盛り上がったり、協力することができて楽しかった。」、「いろんな考えがあって新しい見方ができた。」といった感想がありました。



ワークショップの進行を高校生が行いました



さいたま市の若者から盆栽の魅力を聞きました

対話のプログラム「相高生によるワード講座」

日 時:令和元年 12 月 26 日(木)

研 修 先:相良高校 コンピューター会計室

参 加 者:榛原高校(9 名)／相良高校(10 人) ／地域の人(2人) 合計 21 名

— 内 容 —

前半

○ワード講座

講師役の生徒が作成した相良商店街のチラシを見本にし、見本通りにチラシを作成

後半

○ワークショップ

・アイスブレイク

・ワールドカフェ

「牧之原市を有名にするには」

ファシリテーターは相良高校・榛原高校の生徒2名

・まとめ

— 今回のポイント —

相良高校商業科の生徒が講師となり参加者にワードの使い方を教え、後半に対話の時間を設けるプログラムを実施しました。

前半のワード講座では、参加者のレベルに合わせ講師が丁寧に教えていました。後半の対話では、「牧之原市を有名にするには」というテーマでワールドカフェを実施しました。このテーマを考えたり、当日のファシリテーターを行ったのは、相良高校3年生と榛原高校1年生の生徒でした。相良高校の生徒はファシリテーターの経験があり、今回初めてファシリテーターをやる榛原高校の生徒に教えながら実施しました。

「ワードの使い方をより知ることができて、今後に活かそう。」、「多くの人の牧之原市に対する認識を知れて、視野が広がった気がする。」などの感想がありました。



講師の生徒が作成したチラシ



ワード講座



ワールドカフェ形式で実施しました

対話のプログラム 語 ring(カタリング) vol.2～卒業生と語ろう～

日 時:令和2年1月11日(土)9:30～11:30

会 場:さざんか2階 会議室1・2

講 師:地域リーダー育成プロジェクトOB・OG

参 加 者:榛原高校(2名)/相良高校(11名)/OB・OG(6名) 合計19名

— 内 容 —

① アイスブレイク

②OB・OGの自己紹介

③自己紹介

④質問事項の書き出し

「最近きになっていること、困っていること、聞きたいこと(聞いてほしいこと)」

⑤グループワーク

③で書き出した質問事項をもとにグループワーク

⑥発表

感じたこと、頑張ろうと思ったことを共有

⑦まとめ

— 今回のポイント —

8月に実施した語 ring(カタリング)の第二弾として実施しました。プログラムの内容は全て、OB・OGが作成しました。今回の参加者は、地域リーダー育成プロジェクトに初めて参加した生徒が多かったためグループワークを質問形式にし、気軽に対話の場を楽しめるようにしました。高校生は自分の興味のあることや大学生・社会人の様子をOB・OGたちに聞いていました。

「自分の夢が叶えられるように勉強を頑張りたい。」、「世代の違う人と関わることに意義を感じ、より物事を多面的に考えられるようになるなと感じた。」、「進路についてもっと具体的に考えていきたいと思った。」、「進路について改めて考えたい。」などの感想がありました。参加した高校生は、年齢の近いOB・OGから色々なことが聞きことができ充実した時間を過ごせました。



グループに分かれ対話を行いました

対話のプログラム「富士山静岡空港を知ろう」

日 時:令和2年1月11日(土)

会 場:富士山静岡空港

講 師:富士山静岡空港株式会社

参 加 者:榛原高校(5名)/相良高校(10名) 合計 15名

— 内 容 —

○ 事前説明

- ・当日のスケジュール説明
- ・役割の説明
- ・必要備品確認

○当日

- ・オリエンテーション
- ・イベント実施
- ・対話の時間
- ・まとめ

— 今回のポイント —

1月11日に富士山静岡空港で実施された「冬まつり」の中の餅つきイベントに参加しました。この餅つきは、空港と地域の方が一緒に実施しているものです。高校生は、担当業務ごとにわかれ、空港職員の方と一緒に業務を行いました。

イベント終了後は、地域の方と空港職員の方と対話の時間を楽しみました。空港業務のことや地域の方が行っている狩りのことなど貴重な話を聞くことができました。参加した高校生からは、「どんな声掛けができるか、どんな呼びかけをするとわかってもらえるかをよく考えた。」、「普段の生活の中では体験できない貴重な体験ができた。」などの感想がありました。



地域の方と一緒にもちづくり



たくさんの方が「冬まつり」を訪れました



地域の人や空港の方から
色々な話が聞けました